

## 大井川の流量減少に対する保全措置はどのように考えていますか。

- 河川流量が $2\text{ m}^3/\text{s}$ 程度減少するという予測結果は、トンネル工事に際し、覆工コンクリート、防水シート、薬液注入など何の対策も行わない条件下での結果です。
- 実際の掘削工事の際は、覆工コンクリート、防水シート、薬液注入の施工など、地質に応じた適切な施工方法を検討し実施するため、減少量は予測よりも少なくできると考えています。
- 工事開始からトンネルが貫通するまでの6～7年間は、トンネル内の湧水を汲み上げて、大井川に戻す計画です。その間に、施工中の湧水量や河川流量の把握を行うことができますので、影響を見極めつつ、適切な環境保全措置を実施し、影響を可能な限り低減します。
- また、各分野の専門家からなる大井川水資源検討委員会を設置し、環境保全措置の検討などを専門家のご意見も踏まえながら進めるとともに、実施した環境保全措置の効果等について検証していきます。

トンネル工事に伴い発生する湧水を河川に戻す際に、有害物質が含まれていると魚類等に影響が出るのではないですか。

- 環境影響評価において、土壌汚染の可能性を把握するために、代表的な地質と想定される箇所ボーリングを行い採取したサンプルに対して以下に示す自然由来の重金属等の試験を実施しました。
  - ①スクリーニング試験
  - ②土壌汚染対策法に基づく含有量試験
  - ③土壌汚染対策法に基づく溶出量試験
  - ④酸性化可能性試験
- ①～③の結果、土壌汚染対策法に基づく土壌含有量基準及び土壌溶出量基準を超過する可能性はないことを確認しました。
- ④の結果、「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（暫定版）」の参考値に照らし、地質の酸性化に伴う酸性水の発生のおそれはないことを確認しました。よって、重金属等の長期的な溶出可能性はないと考えられます。
- なお、トンネルからの湧水については、必要に応じ濁水処理設備を設置し、法令に基づく排水基準等を踏まえ、適切に処理をして河川へ戻すとともに、モニタリングにより水質の状況を確認していきます。
- このように、適切に対応することにより、魚類等へ影響は及ばないと考えます。

発生土置き場候補地(扇沢付近、燕沢付近)の安全性は問題ないですか。また、発生土置き場候補地7箇所について、どこにどれだけの量の土を置くのですか。

- 扇沢付近の候補地周辺には、二重稜線や地すべり地形等が分布していることを承知していますが、地質調査に基づき安定した岩盤の上に発生土を置き、法面の勾配などの構造も技術的な基準に沿って設計するため、十分安全を確保できると考えています。現地では、扇沢の谷底部に岩盤が露頭しているとともに、地質調査ボーリングを行い岩盤の存在を確認しています。
- 燕沢付近の候補地上流側の対岸斜面には、千枚崩(あるいは千枚岳崩)があり、そこから生産された土砂が上千枚沢に堆積していることは承知しています。千枚崩において、明治期以降は崩壊により生活・生産活動に大きな被害が発生したという記録は見られません。近年、上千枚沢においては、林野庁の治山ダムが設置されており対策が取られているところです。発生土置き場の造成計画については、擁壁の形状、盛土の工法等に配慮することにより、十分安全を確保できると考えています。
- 7箇所の候補地の中で、どこにどれだけの発生土を置くか等の詳細については、今後、工事計画をつめていく中で、地質調査や測量等を実施し、設計を実施するとともに、森林法や河川法等に関連して静岡県や静岡市などの関係箇所と協議を行いつつ、環境面や技術面などを総合的に考慮して決めていきます。

中央新幹線建設と南アルプスユネスコエコパークとの両立はどのように考えているのですか。

- ユネスコエコパークは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的とした制度であり、厳重に保護される「核心地域」、研究、教育等に利用される「緩衝地域」、居住や持続可能な資源管理活動が推進・展開される「移行地域」に分類されます。
- 発生土置き場や非常口は、電力会社が使用した工事ヤード跡地や人工林等を使用しており、ユネスコエコパークにおける、移行地域に含まれています。
- 工事用車両の運行にあたっては、カーブミラーの設置等の安全対策の策定、観光シーズンの事情にも配慮した適切な運行計画の策定など、地元の方々の環境や観光客の活動に影響を与えないよう配慮していきます。
- また、事業に伴う林道の改良や通信インフラの整備、工事施設の転用による宿泊施設の整備によりアクセス面などでユネスコエコパークにおける活動の利便性や快適性の向上に資すると考えています。
- 今後、計画を詳細に検討していく段階において、さらには工事を実施する段階において、静岡市などの関係機関と調整しながら、本事業とユネスコエコパーク計画との整合を図っていきます。

南アルプストンネルの非常口(山岳部)の数を減らすことはできないのですか。

- 南アルプストンネルはその長さや土被りなどから工事の難度が高いこと、非常口を減らせばその分工事期間が延び、工事による環境への影響期間も延びることなどを考えると、評価書に記載したものが必要最小限であると考えております。

